

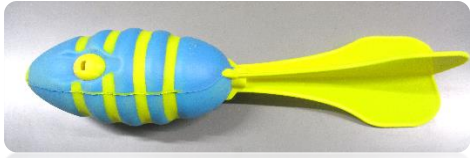
令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 福岡県 】

学校名【 天神山小学校 】

1 実践テーマ	I ・ II ・ III ・ IV ・ V (複数選択可)
2 実施対象者 (学 年 ・ 人 数)	第6学年5組・27名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (体育科) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目 標 (ねらい)	○ボール投げに関する技能を高めることができる。また、運動に対する苦手意識を軽減し、運動することへの楽しさを実感することができる。
5 取組内容	単元名「6年5組ジャベリックボール大会を楽しもう」 学習の単元計画を全5時間で構成。新体力テストのソフトボール投げの要素を取り入れたチーム戦によるゲームを中心においた学習内容となっている。 事前学習として、新体力テストのソフトボール投げを実施。単元を導入・展開・終末の3段階にわけ、それぞれ1・3・1時間にふり分けた学習を展開した。また、事後学習として再度、ソフトボール投げを行い、事前学習からの記録の伸びを確認した。  今回学習で使用したボール EVERNEW 「スカットキッズ」 導入段階（第1時）では、ほぼ全員がジャベリックボールにはじめて出会うため、「ボールの扱いに慣れること」「ゲームを行うために必要な個人の得点表を作成すること」を中心に活動した。ボールの投げ方の指導後、一人あたり5回～6回の記録を測り、個人の得点表を作成した。

	終末段階（第5時）では、これまでの学習のまとめとして、チーム対抗のジャベリックボール大会を行い、自身や友達の技能の高まりを実感し合いながら学習を終えた。
6 主な成果	○ 投げることに特化した授業を仕組んだことにより、児童の投げる技能が向上し、結果、学習前に比べてソフトボール投げの記録が向上した児童が27名中23名いた。そのうち、9名の児童が5m以上、記録が向上していた。 その根拠としては、「体重移動の仕方」「手首のスナップの利かせ方」「ボールを話すタイミング（投射角度）」を身に付けたことにあると考える。 ○ ゲームのルールにおける得点の取り方に投げる技能が高い児童とそうでない児童に平等性を持たせたことにより、ゲームで活躍する児童が増えた。
7実践において工夫した点（事業の特色）	○ 単元の導入でオリンピック陸上競技の投てきの映像を視聴させることで、オリンピック、そして投の運動に興味・関心をもたせた。
8主な課題等	○ 投げることへの苦手意識を持っている児童に対しては、児童同士の教え合いだけでなく、専門的な指導を教師自身も深く関わりながら指導していく必要がある。（教えるべきところは、教師自ら教える。） ○ 児童一人一人が技能の向上を実感することができるような教具をICT以外にも活用する必要がある。
9来年度以降の実施予定	○ 投げる技能に特化した学習を各学年で実施し、段階的に技能を身につけさせ、結果、学校全体の新体力テストの記録の向上を図りたい。

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

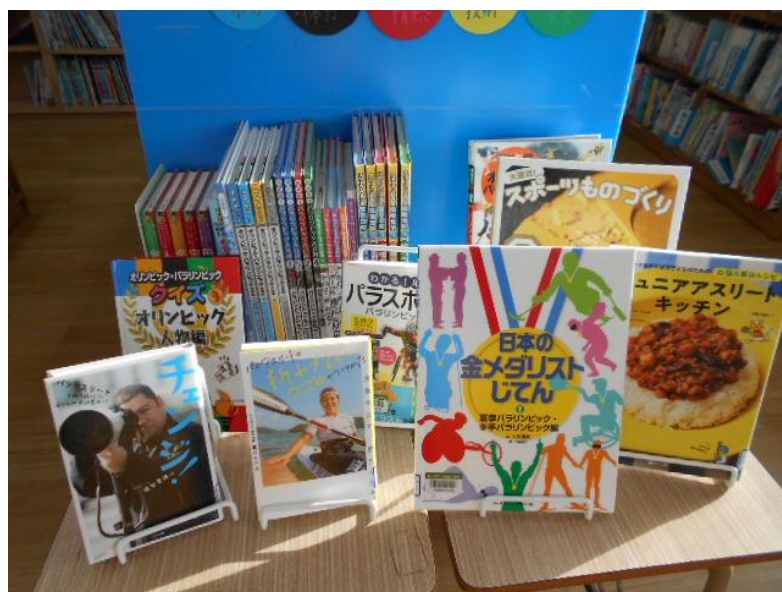
道府県・政令市名【 福岡県 】

学校名【 天神山小学校 】

1 実践テーマ	I・II・III・IV・V (複数選択可)
2 実施対象者 (学 年・人 数)	第4学年3組・36名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (学級活動) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目 標 (ねらい)	○オリンピック・パラリンピックの種目の詳細や選手のがんばり、大会に関わる人々の努力などを知ることを通して、オリンピック・パラリンピックへの興味・関心を深めることができるようにする。
5 取組内容	単元名「オリンピック・パラリンピックって何だろう」 本単元自体は、単元計画を全2時間で構成。この後に取り組むソフトバレーボールの導入的な内容となっている。 現在に至るまでに、テレビやSNS等のメディアを通していずれかの競技やオリンピックの画像・映像を見たことがある子どもは8割を超えていた。(36人中30人)しかし、その実際(詳細)についてはほとんどの児童が知らず、雰囲気だけを楽しんでいる状態であった。 そこで、第1時では、オリンピック・パラリンピックとの関わりを振り返った後、自分に合った図書資料を選択し、個人又はグループで調べ学習を行った。オリンピックの歴史や種目の変遷、オリンピックの活躍、各競技に物づくりで携わる人々等、子ども達は多面的にオリンピックについての知識を獲得していった。本来は、インターネット等の情報源を活用する予定であったが、校内インフラ整備の途中であり、授業中に確実に情報を得られるのは、図書資料がメインになってしまった。それでも、子ども達は自分が気になること、知りたいことに見合う図書資料を見つけて情報を得ていった。



【図書室に設置した「オリンピック・コーナー」】



【オリンピック・パラリンピックに関する書籍】



【自分に合った図書資料を探す子ども達①】



【自分に合った図書資料を探す子ども達②】

第2時では、調べ学習の成果を互いに報告し合い、がんばりを認め合った。自分一人では調べることができなかった様々な情報を聞き、たくさんの気づきがあった。

授業後半では、「オリンピック・パラリンピックに関する指導参考映像資料」を提示した。子ども達は、今回の調べ学習では直接目にすることができなかった「映像」でオリンピック・パラリンピックのことをさらに深く知ることができた。

授業後に、子ども達に学習した感想について、次のような言葉が聞かれた。

- オリンピックのことは知っていたけど、パラリンピックのこともよく分かった。選手の皆さんにはぜひがんばってもらいたい。
- オリンピアンの人達が、メダルを獲れるように、どれほど努力をしているのかを知って、実際の競技の時にも心から応援したいと思いました。
- 競技で使用する道具一つ一つの作成に携わる人々の熱い思いが伝わってきた。オリンピックを見る時は、道具にも注目したいです。
- オリンピックが「平和の祭典」と言われている理由がよく分かった。2020オリンピックも世界の平和につながるように、先週の皆さんをしっかり応援したいです。

6 主な成果

- 子ども達は、オリンピック・パラリンピックに関する多くの知識を獲得することができた。
- オリンピックやパラリンピックに対する興味・関心を深め、積極的に関わっていこうとする思いをもつことができた。

7実践において工夫した点(事業の特色)

○特になし

8主な課題等	○ 現時点で、一人一台のタブレット導入に向けてこれまで使えていた児童用パソコンが使用できなくなっているものの、まだ使用できるタブレットの数は限られており、広く情報を集めることが難しかった。 ○ 図書資料も数が多いに越したことはない。もっと多面的・多角的にオリンピック・パラリンピックに迫らせたいと思った。
9来年度以降の実施予定	○ 来年度より、一人一台のタブレット使用が可能となるため、インターネットでの情報収集が容易になる。限られた図書資料に頼るしかなかった今年度よりは、大規模（学年全体或いは複数学年）でより充実した学習を展開することができる。

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 福岡県 】

学校名【 天神山小学校 】

1 実践テーマ	I ・ II ・ III ・ IV ・ <u>V</u> (複数選択可)
2 実施対象者 (学 年 ・ 人 数)	第4学年3組・36名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (体育科) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目 標 (ねらい)	オリンピック・パラリンピックの種目でもあるバレーボールの学習を通して、スポーツに対する興味・関心を向上させると共に、苦手な子も含めてみんなが楽しくゲームに参加し、学習指導要領の目標を達成することができる。
5 取組内容	単元名「4年3組ソフトバレーボール大会をしよう」 学習の単元計画を全6時間で構成。ゲームに慣れる第1時・2時、規則を工夫してゲームを楽しむ第3時、簡単な作戦を考えてゲームを楽しむ第4時・5時、まとめの学習として「4年3組ソフトバレーボール大会」を行う第6時で学習を展開する。 第1・2時 バレーボールへの関心を高め、ソフトバレーボールの規則を覚えて、楽しくゲームができることをねらいとして学習を展開した。まず、オリンピックのバレーボールの映像を見て、バレーボールへの関心を高めた。オリンピックに限らず「バレーボールの試合をテレビ等で見たことがあるか」と尋ねると、36人中26人が見たことがあると答えた。見たことがない児童は特に、日本代表の迫力のあるプレーを食い入るように見ており、バレーボールへの関心を高めることができた。 その後、初めの規則をもとに、試しのゲームを行った。苦手な児童でも楽しめるように、キャッチをありにした規則で行った。



しかし、初めてのソフトバレーボールということもあり、レシーブとアタックの動きが難しく、苦戦する様子が見られた。その後は、第2時まで、ゲーム及び技能を高める練習を中心に学習を行った。第2時の最後には「これからどのようなソフトバレーボールにしていきたいか」という願いを児童に尋ねた。「みんなが楽しくできるゲームにしたい。」「試合に勝ちたい」、「もっと得点を取りたい」、「大会で優勝したい」など様々な意見がでてきた。第1時後の「楽しく学習ができましたか」という問いに対し、4段階評価での4をつけたのは36人中30人であったが、規則を覚え動きが向上した第2時では、36人中全員が4をつけた。2時間をかけ、動き方が分かり、規則を覚えたことで、より楽しさを広げることができた。



ソフトバレーボール 初めの規則

- ・ゲームは4対4で行う。得点が入るたびに、ピブスの番号の順に1人ずつ交代する。
- ・1試合の時間は8分間。(前半4分、後半4分)
- ・サーブは、下から投げ入れる。得点に関係なく交互に行う。
- ・全員が必ず1回はボールにさわるようにし、4回以内で相手コートに返す。
- ・2回までキャッチをしてもよい。
- ・4回以内で返せなかった場合は、相手チームに1点とする。
- ・審判は、ゲームにでていない人も含め、みんなで行う。
- ・ボールは50gを使う。



第3時

子供たちの願いにあった「得点を多くとりたい」という願いを実現するために、得点の仕方を工夫してゲームを行う学習を展開した。

まず、得点の仕方の工夫として、子供が考えた規則と教師が考えた規則を提示した。

- ①初めてアタック3点
- ②ラリー点（チームでつないだ数だけ、点数になる。）
- ③後半は得点が2倍

次に、これらの規則を試しながら、ゲームⅠとⅡを行った。ゲームを終えた後、それぞれのチームで話し合い、自分たちのチームの得点の仕方を決定した。

最後に、前半、後半でチームごとに決めた規則に変えて、メインゲームを行った。得点の仕方を工夫したことでどのチームも得点が伸び、より楽しくゲームを行うことができていた。

第4・5時

子供たちの願いにあった「試合に勝ちたい」という願いを実現



得点の仕方について話し合う様子。

	するために、簡単な作戦を考えてゲームを行う学習を展開した。まず、作戦を考えるための観点を示した。 ○役割 ○キャッチの順番 ○フォーメーション 次に、作戦をチームで話し合わせた。話し合いの中では、キャッチやアタックをする人を決めたり、フォーメーションを考えたりとそれぞれのチームで色々な考えが生まれていた。そして、その作戦を生かしてゲームⅠを行った。その後、試合をふり返り、チームごとに練習をさせ、ゲームⅡを行った。ゲームとチーム練習の時間を取り入れることで、作戦ボードで考えた作戦を具体的にイメージでき、それぞれのチームに合った作戦を考えていくことにつながっていた。 最後に、チームごとに考えた作戦を生かして、メインゲームを行った。前時の得点の仕方の工夫と作戦を考えてゲームに臨んだことにより、どのチームも点数が上がり、さらにゲームを楽しむ様子が見られた。 第5時は、第4時の続きとして、改めてチームごとに作戦を見直して練習をし、ゲームを行った。 第6時 これまでの学習のまとめとして、「4年3組ソフトバレーボール大会」を行い、自身や友達の技能の高まりを実感し合いながら学習を終えた。 
6 主な成果	○ 児童がバレーボール（ソフトバレーボールの学習）に関心をもつことができた ○ 学習指導要領にある、色々な高さのボールを片手や両手ではじいたり、打ちつけたりする動き、ボールの方向に体を向け、ボールの落下点やボールを操作しやすい位置に移動する動きを高めることができた。 ○ 規則を工夫することで、運動が苦手な子もみんなが楽しみながら学習を行うことができた。
7実践において工夫した点（事業の特色）	○ 単元の導入で、オリンピックでのバレーボールの試合映像を見せることで、オリンピック、そして、バレーボールに興味・関心をもたせた。

8主な課題等	○ 十分に技能を身につけさせるためには、8 時間程度で単元を計画し実践してもよい。 ○ チームや児童一人一人が技能の向上を実感できるように、ICT だけでなく、チームノートとしてデータをとるなどの工夫も考える必要がある。
9来年度以降の実施予定	○ 今回の学習を生かして、6 年生で再度ソフトバレーボールの学習を実践する。その際には、キャッチは 1 回までという規則にし、動きの向上を図る。規則の工夫を教師側から提示せず、子供に考えさせる。チームの特徴に応じた作戦を考えてゲームをさせるなど、高学年の指導内容に合わせて学習内容のレベルアップを図っていく。